

鹿角市

ヤングケアラーアンケート調査

－ 調査結果報告書 －

令和6年11月

鹿角市

ヤングケアラーアンケート調査について

ヤングケアラーとは、家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる、社会生活を円滑に営む上での困難を有するこども・若者のことです。すなわち、こどもにおいてはこどもとしての健やかな成長・発達に必要な時間（遊び・勉強等）を奪われたり、若者においては自立に向けた移行期として必要な時間（勉強・就職準備等）を奪われたり、ケアに伴い身体的・精神的負荷がかかったりすることによって、負担が重い状態になっている場合を指すものです。「家族の日常生活上の世話」には、法文上明示されている「介護」に加え、幼いきょうだいの世話、障害や病気等のある家族に代わって行う家事や労働のほか、目の離せない家族の見守りや声掛けなどの気遣いや心理的な配慮、通訳なども含まれます。

国は、子ども・若者育成支援推進法及び児童福祉法第25条の2について、本年6月に改正し、ヤングケアラーへの支援の一層の強化を図っています。ヤングケアラーを関係機関等が各種支援に努めるべき対象として、法律上明記する等の改正を行うことで、ヤングケアラーへの支援の普及を図るものです。

ヤングケアラーについて、個別具体的な支援につなげるためには、周囲の大人がヤングケアラーに気づくことができるよう学校関係者等の理解促進を行うことが重要であり、また、ヤングケアラー自身に気づきを与えるようなアンケートを行うことが有効であるということを示しております。

具体的な取り組み

（1）ヤングケアラーに関するアンケートの実施

支援を必要とする児童の実態把握とその児童を早期に支援に繋げること、及び児童生徒に対するヤングケアラーの認識を広げることを目的としてアンケート調査を実施した。アンケート調査は、学校を通じて、記名式で行った。アンケートは来年度以降も継続する。

ヤングケアラーは周囲で気づきにくいと言われており、児童がS O Sを出せる機会を定期的にするのが重要。また、ヤングケアラーの把握をきっかけに、経済的問題や児童虐待などの問題が表面化することも想定されるため、当アンケート調査による効果は大きいといえます。

【調査概要】

対象者 市内小学校（4年生～6年生）、中学校、高校に在籍する児童

調査期間 令和6年9月2日～9月9日

調査方法 原則学校タブレットによるWEBアンケートで実施。

ヤングケアラー周知用パンフレットのほか、依頼のお便りにヤングケアラーの説明イラストを載せ、わかり易い工夫をした。

調査結果 有効回答 1,406/1,698人（82.8%） （内訳）小学校511/556人（91.9%）、中学校594/647人（91.8%）、高校301/495人（60.8%）

（2）支援の必要性や緊急性の高い者への優先的な支援

特に優先的に支援を行う必要性の高いケースとしては、病気や障がいがある保護者などに日常的なケアを要したり、ケアの担い手が当該こどものみであったりするなどして、保護者に対するケアをこども・若者が長時間担っているような家庭を想定しています。アンケートの結果を元に、聞き取り等調査により把握したヤングケアラーの情報については、教育委員会、学校、こども家庭センター間で適切に情報共有し、支援につなげていきます。

(アンケート依頼のお便りの説明イラスト)

【ヤングケアラーとは、家族の「お世話」をしていて、勉強や遊ぶ時間が無くなっている人のことです。「お世話」の内容については、下のイラストの説明を参考にしてください。】



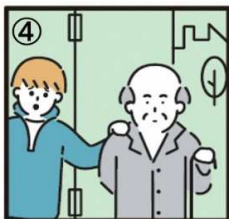
① 家族に代わって、買物・料理・洗濯をしている。



② 家族に代わって、弟や妹のお世話をしている。



③ 病気などのきょうだいの世話やみまもりをしている。



④ 自の離せない家族のみまもりや声かけなどの気づかいをしている。



⑤ 日本語を話すことが難しい家族のために通訳をしている。



⑥ 家計を支えるために働いて、家族を助けている。



⑦ アルコール・ギャンブル等の問題を抱える家族に対応している。



⑧ 重い病気の家族の看病をしている。



⑨ 病気などの家族の身の回りの世話をしている。

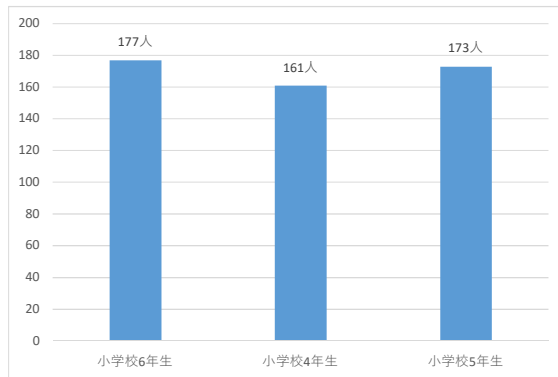


⑩ 家族のお風呂やトイレの手助けをしている。

【小学校】 回答率91.9%（556人中511人）

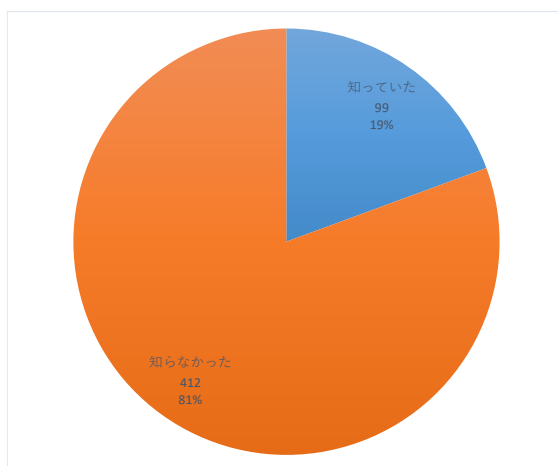
Q2.あなたは何年生ですか。

小学校 N=511



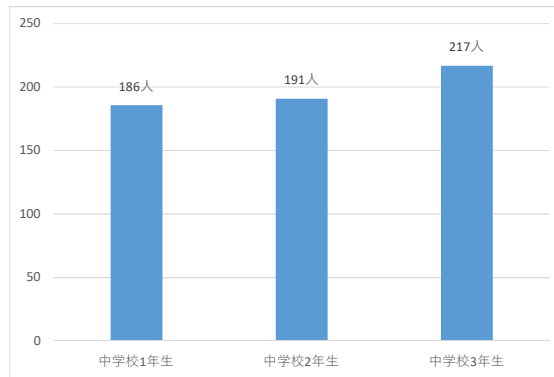
Q4.「ヤングケアラー」という言葉を知っていましたか。

小学校 N=511

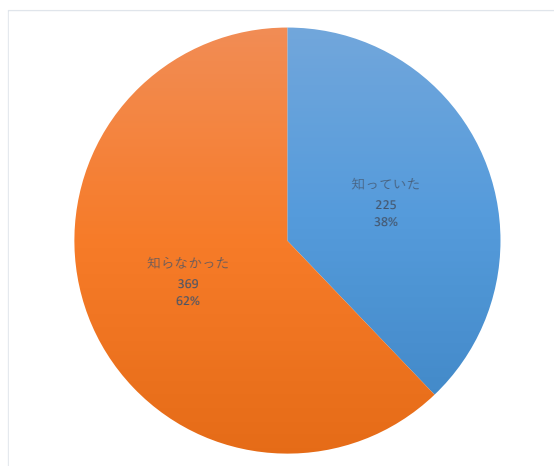


【中学校】 回答率91.8%（647人中594人）

中学校 N=594

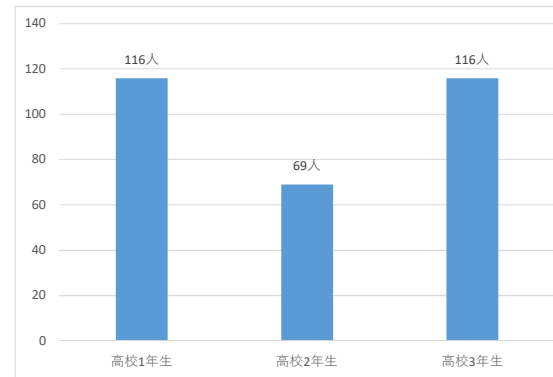


中学校 N=594

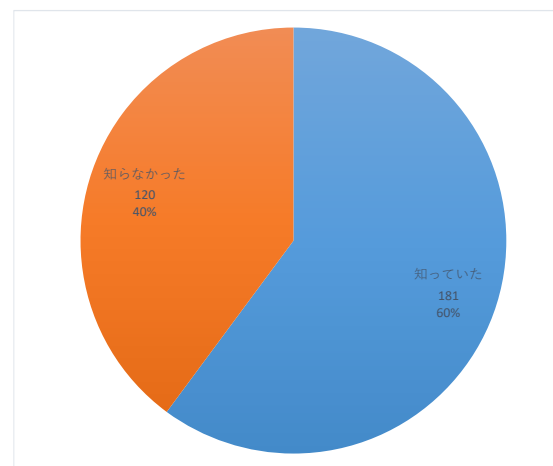


【高校】 回答率60.8%（495人中301人）

高校 N=301



高校 N=301



○小中学校の回答率

は、約92%。高校は約61%。

→小中学校は、学校で時間を割いて貰い、先生方のガイド有りアンケートを行ったから、回答率が高い。

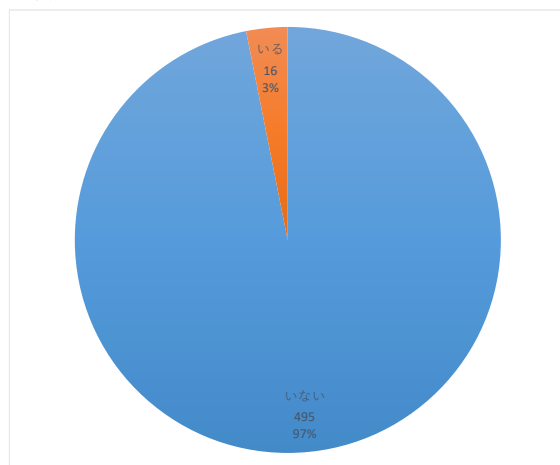
○認知度は、

小19%、中38%、高60%

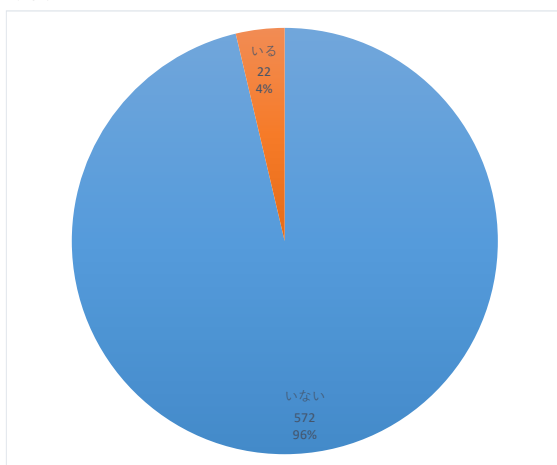
年齢が上がると、認知度も高くなる。

Q5.あなたが「お世話」をしている家族はいますか。

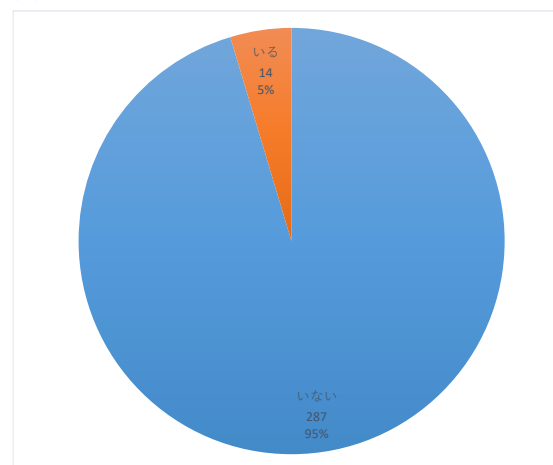
小学校 N=511



中学校 N=594



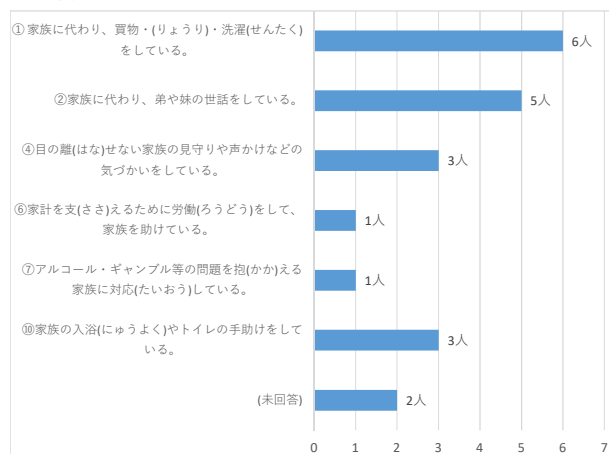
高校 N=301



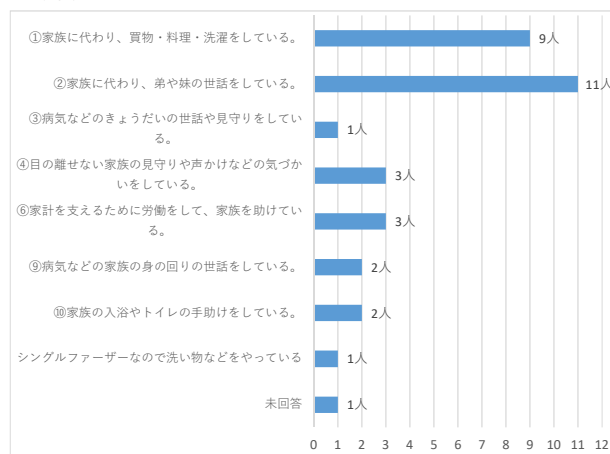
○小学校16人、3%、
中学校22人、4%、
高校 14人、5%、
合わせて52人が、「い
る」と回答している。

Q6.あなたがしている「お世話」はどれですか。（複数回答可）（Q5で「いる」と回答した人のみ）

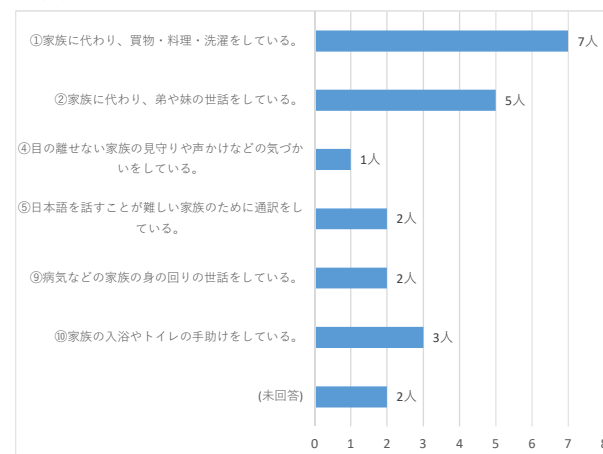
小学校 N=16



中学校 N=22



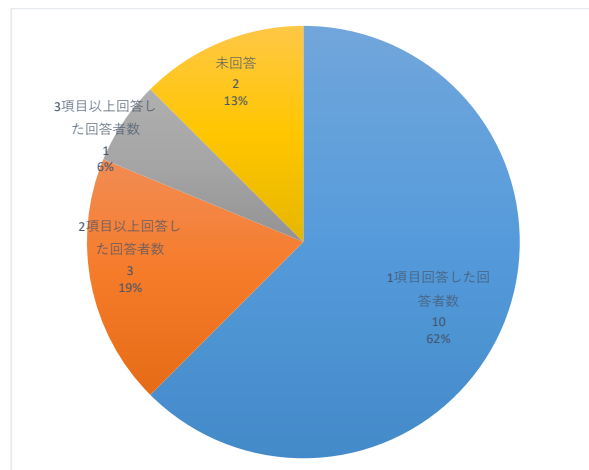
高校 N=14



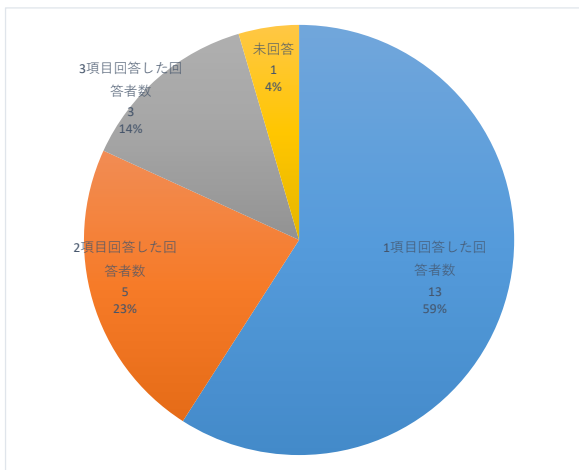
○小中高を通して、①
「買い物、料理、洗
濯」②「弟、妹の世
話」が多い。

Q6.あなたがしている「お世話」はどれですか。（複数回答可）（Q5で「いる」と回答した人のみ）

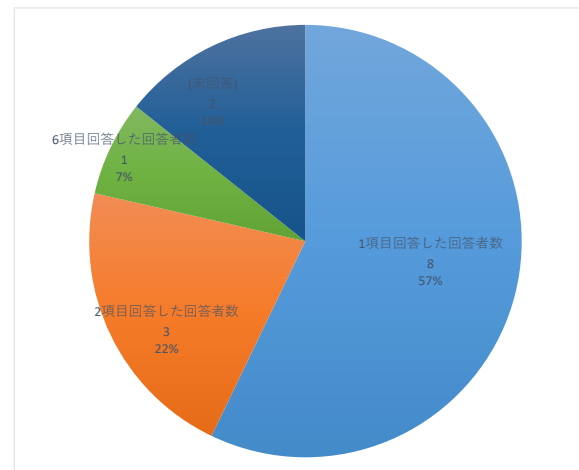
小学校 N=16



中学校 N=22



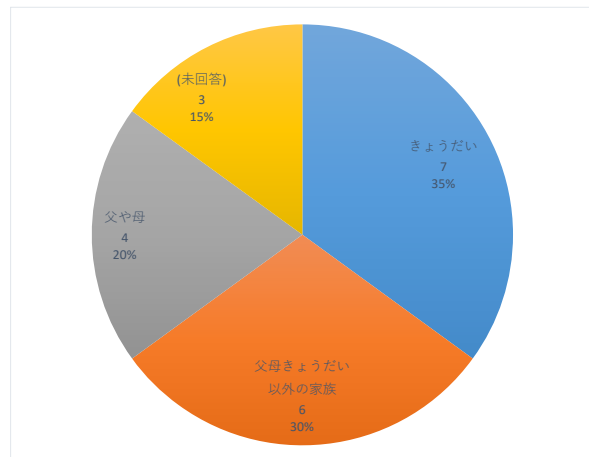
高校 N=14



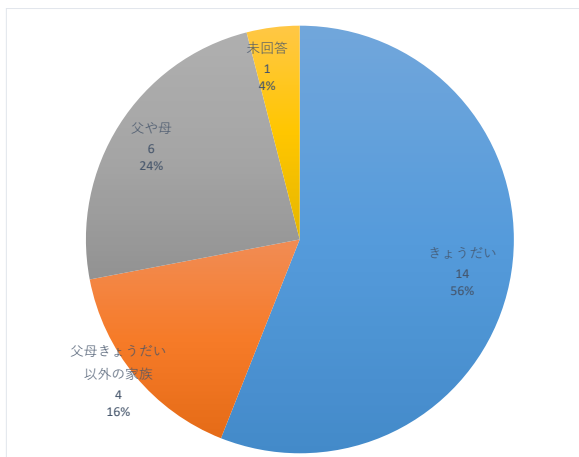
○小中高を通じてお世話の種類が1項目であったのが約60%。2項目が約20%。3項目以上の回答が若干数見られる。

Q7.あなたがお世話をしている方は誰ですか。（複数回答可）（Q5で「いる」と回答した人のみ）

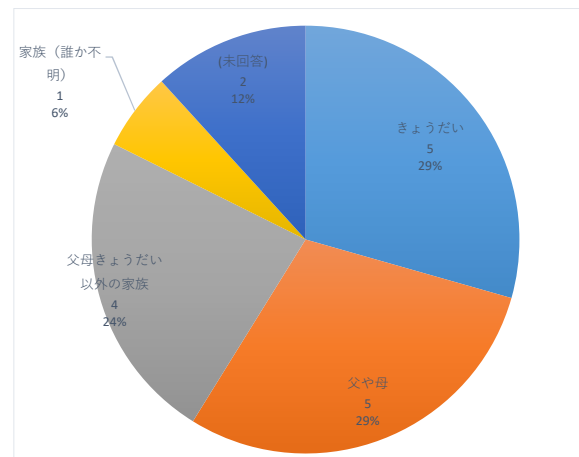
小学校 N=16



中学校 N=22



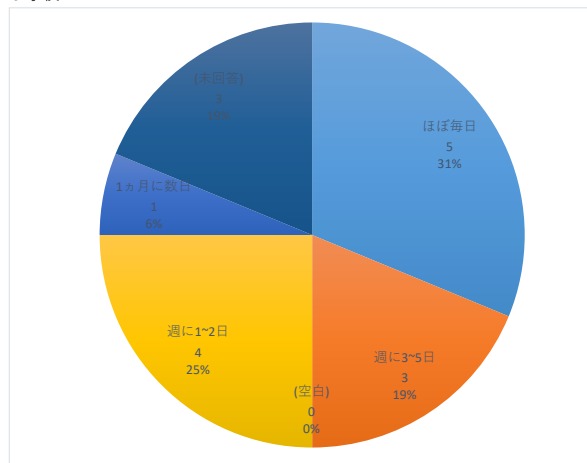
高校 N=14



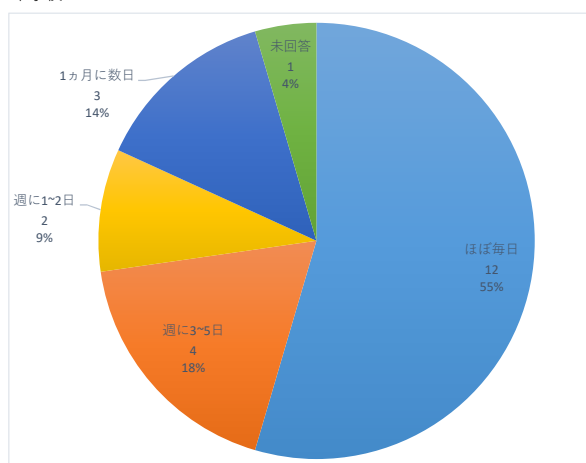
○小中高を通して、きょうだいが多い。
○父母と答えたのは、小学校4人（20%）、中学校6人（24%）、高校5人（29%）
→父母である場合、「子どもだけでケアしている」「話を聞いてくれる人がいない」割合が高いという調査結果があり、注意すべき対象である。

Q8.お世話をする頻度はどのくらいですか。（Q5で「いる」と回答した人のみ）

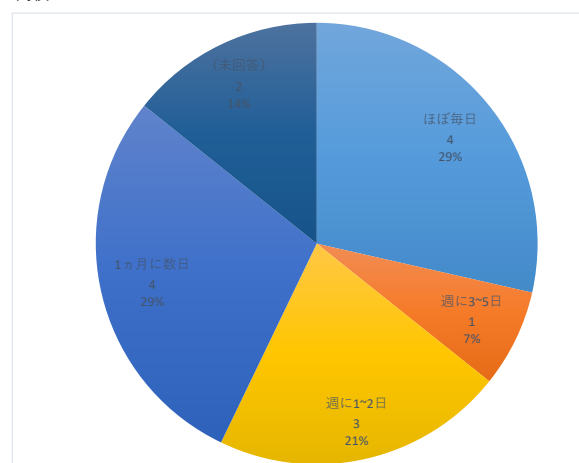
小学校 N=16



中学校 N=22



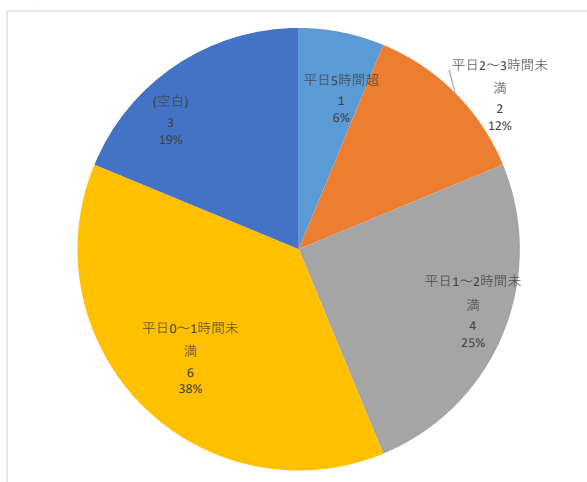
高校 N=14



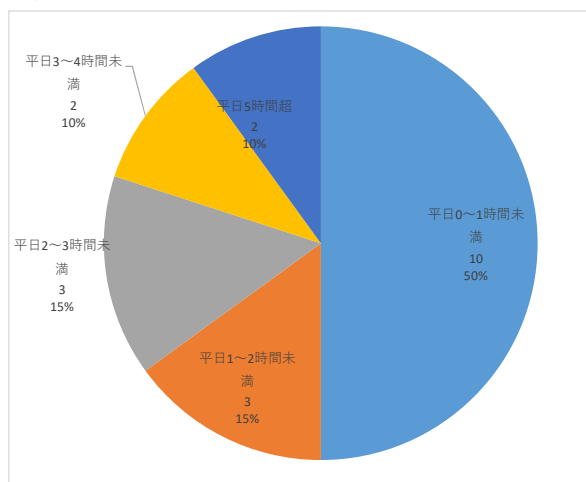
○週3日以上としてみ
ると、小学校50%、中
学校73%、高校
36%。高校の値が低
い。

Q9-1.「平日」においては、一日のうち、お世話の時間はどのくらいですか（Q5で「いる」と回答した人のみ）

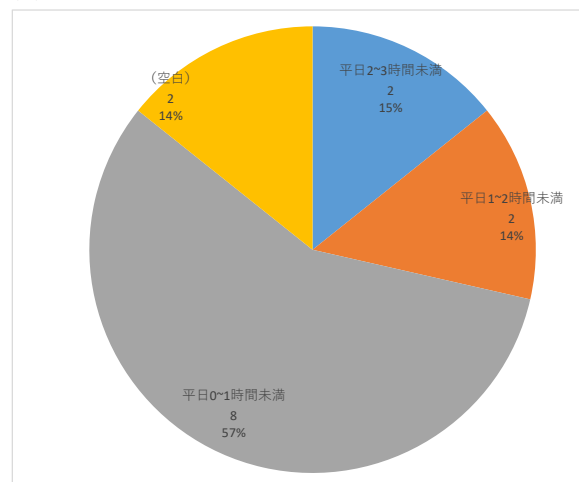
小学校 N=16



中学校 N=22



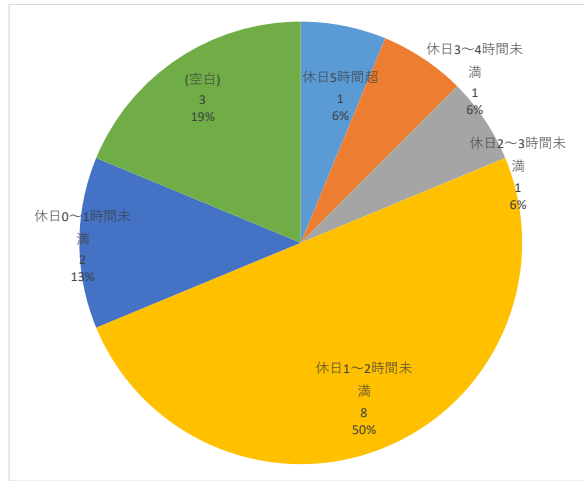
高校 N=14



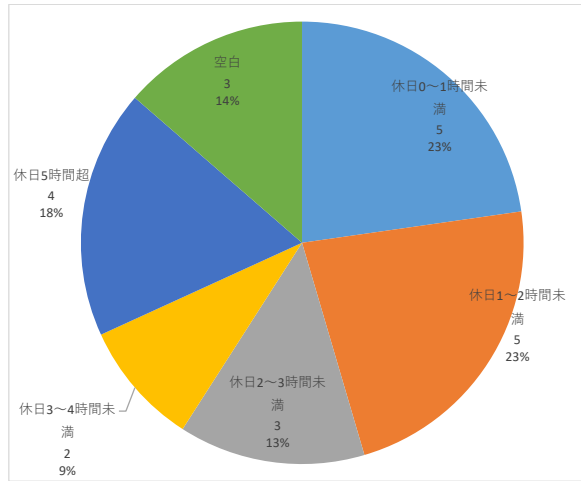
○小学校、中学校にお
いては、5時間超えの
回答がある。高校にお
いては、3時間以上は
いない。
○2時間以上の割合
は、小学校18%、中学
校35%、高校15%。
高校の値が低い。

Q9-2.「休日」においては、一日のうち、お世話の時間はどのくらいですか。（Q5で「いる」と回答した人のみ）

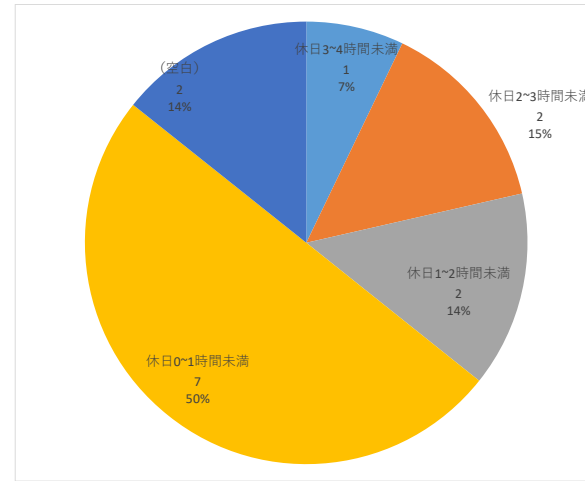
小学校 N=16



中学校 N=22



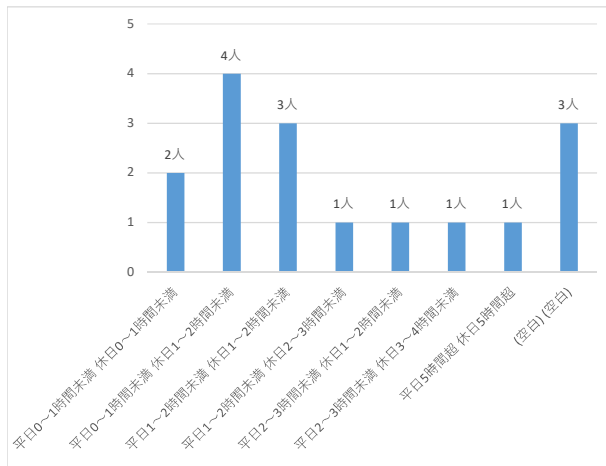
高校 N=14



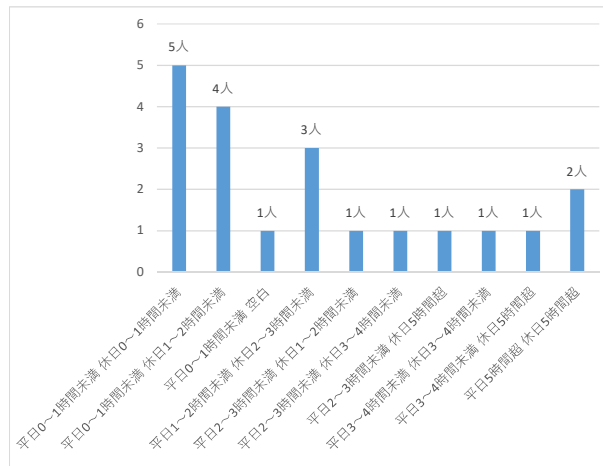
○小学校、中学校においては、5時間超えの回答がある。高校においては、5時間超はない。
○2時間以上の割合は、小学校18%、中学校40%、高校22%。

Q9-1.9-2.のクロス集計「平日」のお世話の時間と「休日」のお世話の時間との関係

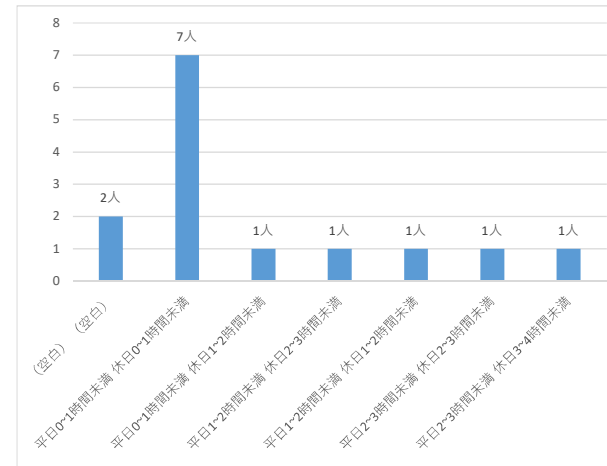
小学校



中学校



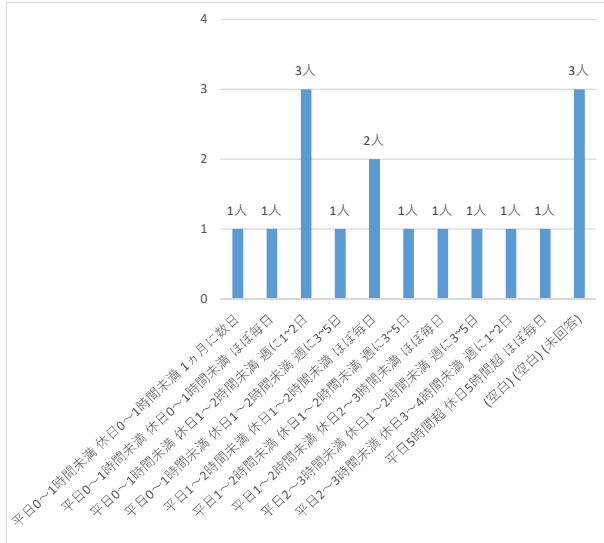
高校



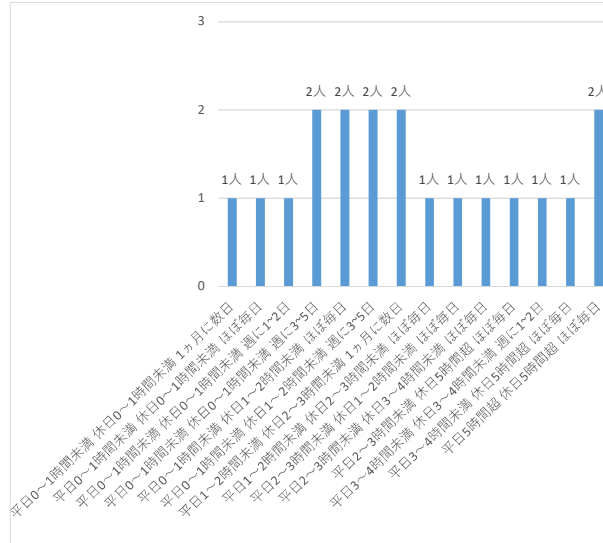
○休日のお世話の時間は、平日のそれと同じか、上回る傾向がみられる。（下回らない。）
（上回る：小学校6人、中学校10人、高校3人、下回る：小学校1人、中学校2人、高校0人、同じ：小学校7人、中学校8人、高校9人）

Q8.Q9-1.9-2.のクロス集計「平日」「休日」のお世話の時間と頻度の関係

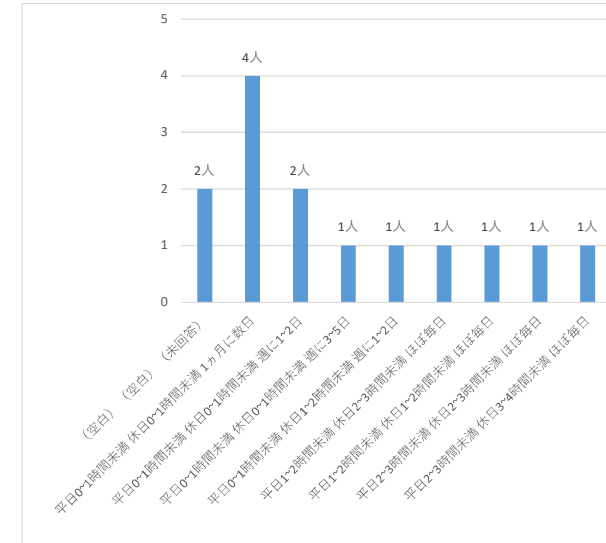
小学校



中学校



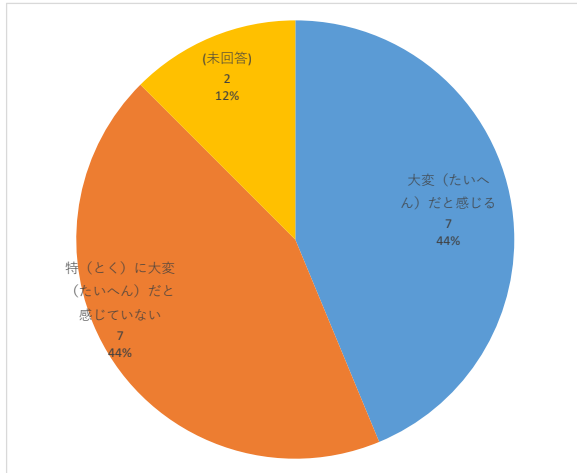
高校



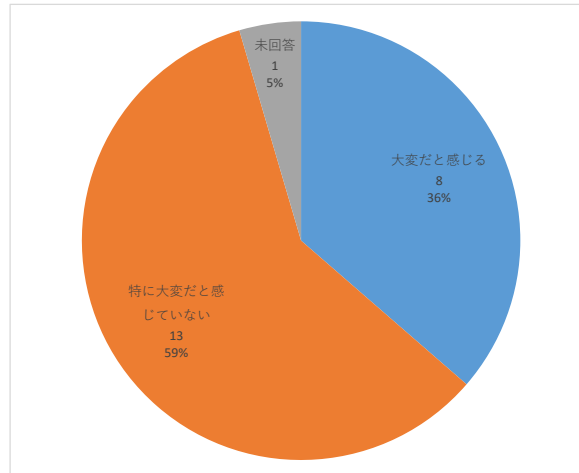
○小学校に関しては相関関係が見られない。
○中学校高校に関しては、一日のお世話の長いの方が、頻度が高い傾向にある。

Q10.家族のお世話をすることは大変だと感じますか。（Q5で「いる」と回答した人のみ）

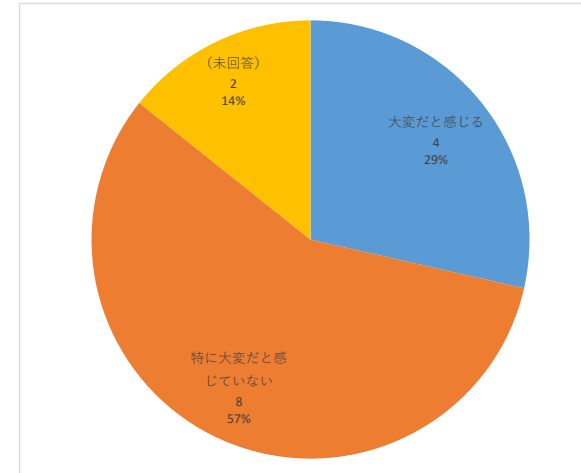
小学校 N=16



中学校 N=22



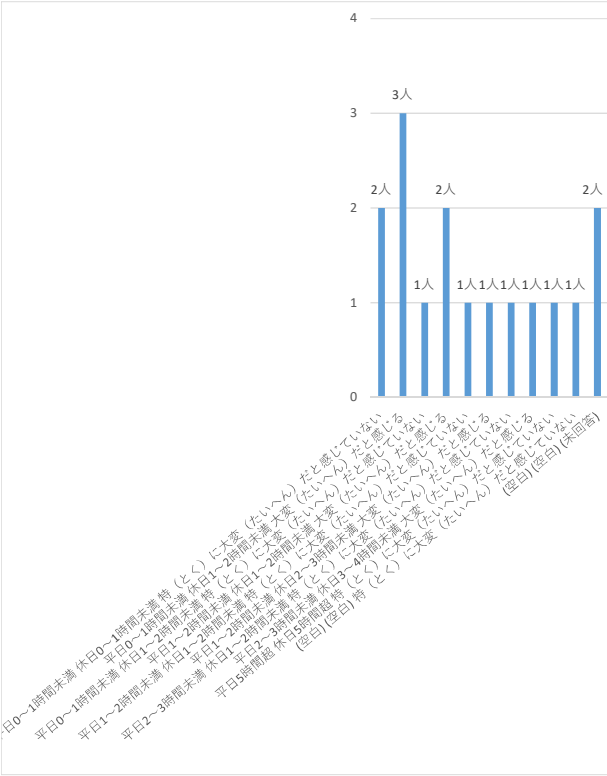
高校 N=14



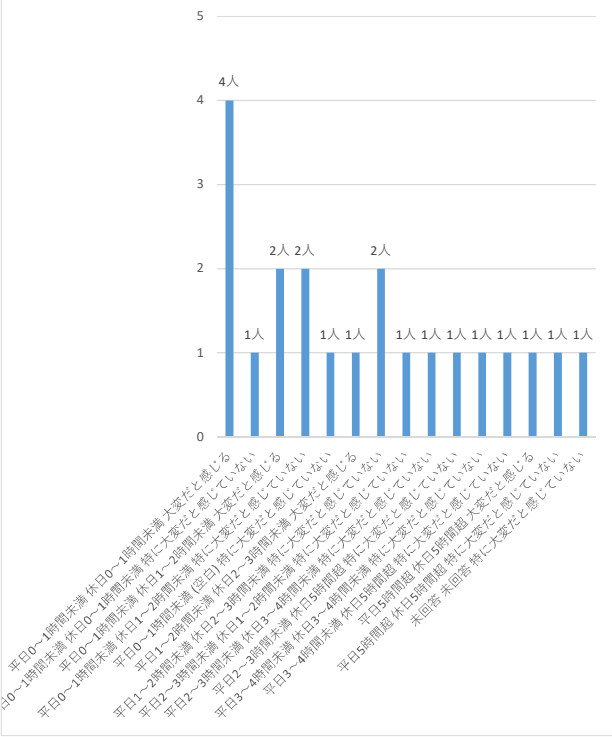
○小学校に関しては「感じる」と「感じていない」が同数。
○中学校、高校に関しては、「感じる」より「感じていない」が多い。

Q9-1.9-2.Q10.のクロス集計「平日」「休日」のお世話の時間と負担感の関係

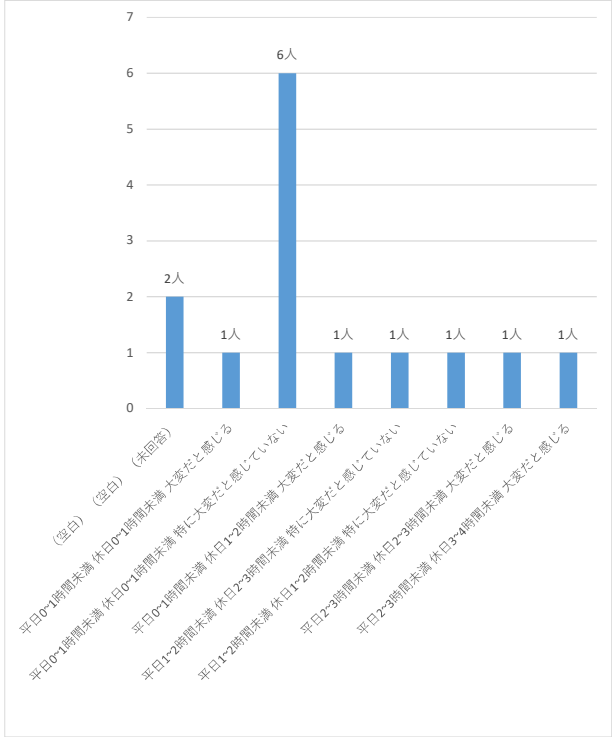
小学校 N=16



中学校 N=22



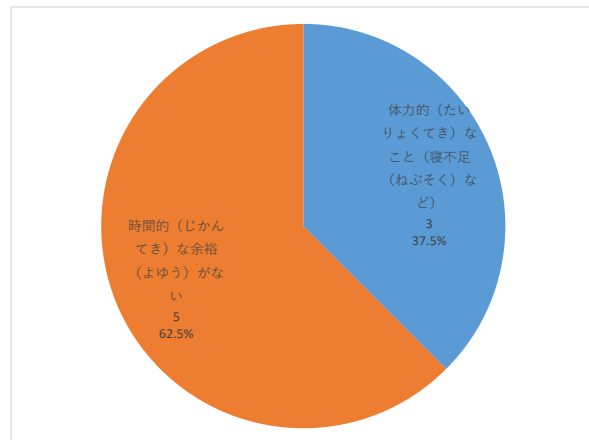
高校 N=14



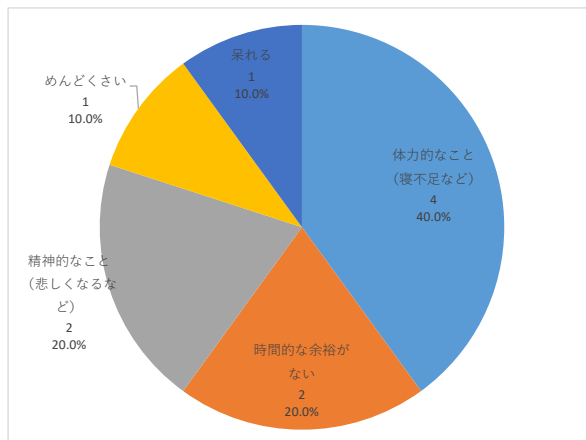
○小学校に関してはお世話の時間と負担感の相関関係は見られない。
○中学校に関してはお世話の時間が長くても、大変だと感じていない人が多い。
○高校に関しては、平日2時間未満だと大変だと感じない人が多い。

Q10-1.家族のお世話をする中でどんなことが大変だと感じますか。（複数回答）（Q10で「大変だと感じる」と回答した者のみ）

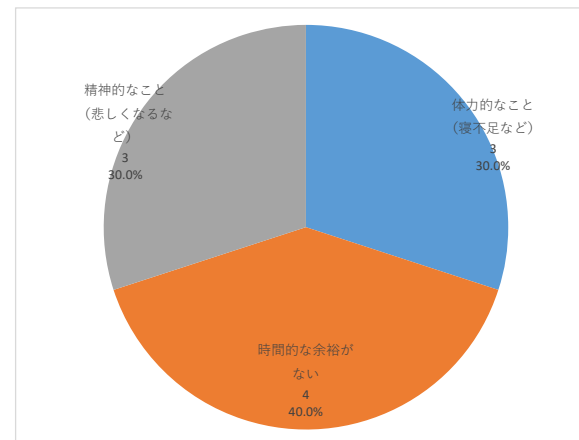
小学校 N=8



中学校 N=8



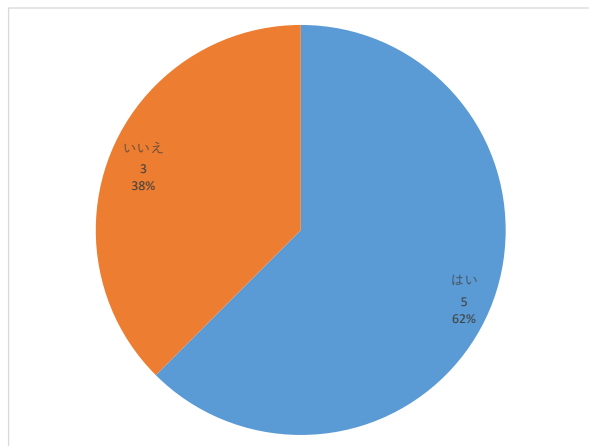
高校 N=4



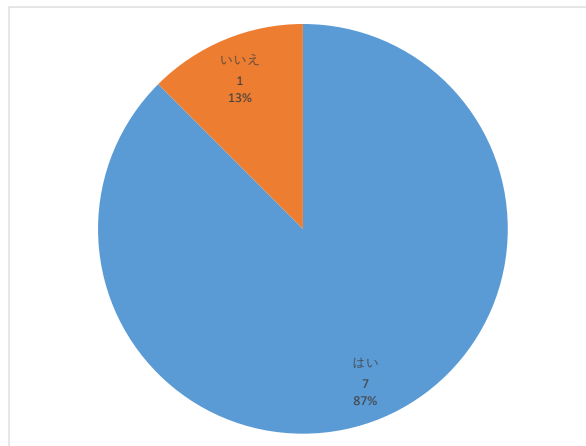
○小学生は「時間的」、「体力的」に大変さを感じているが、中学生以上になると、「時間的」、「体力的」に加えて「精神的」に大変さを感じる。

Q11.大変だと感じたとき、誰かに相談できますか。（Q10で「大変だと感じる」と回答した者のみ）

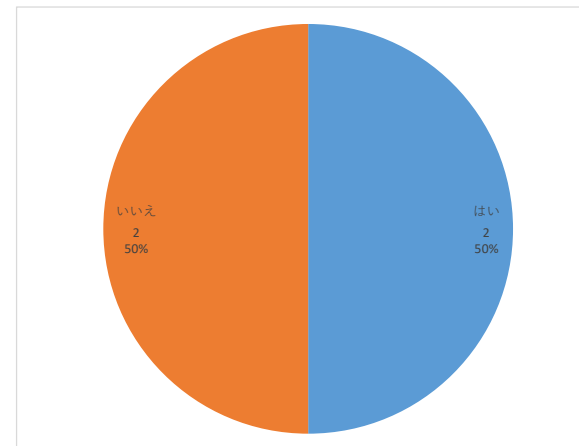
小学校 N=8



中学校 N=8



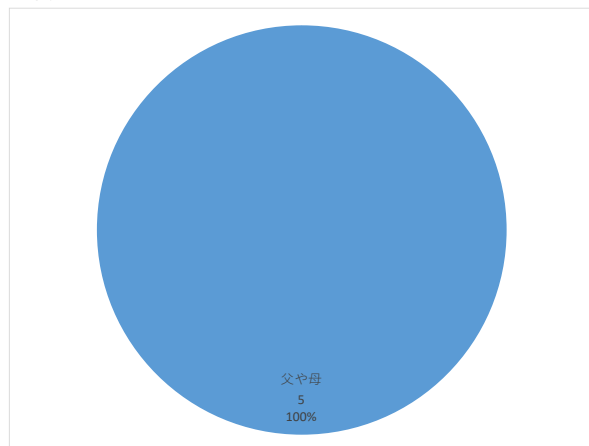
高校 N=4



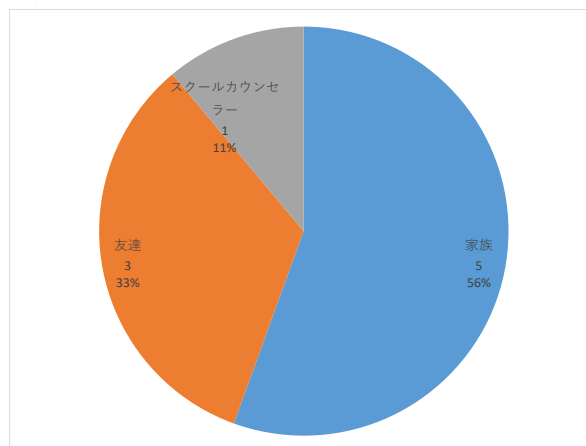
○相談できないと答えたのが、20人中6人。

Q11-1.相談できるのは誰ですか。（自由記載）（Q11で「はい」と回答した者のみ）

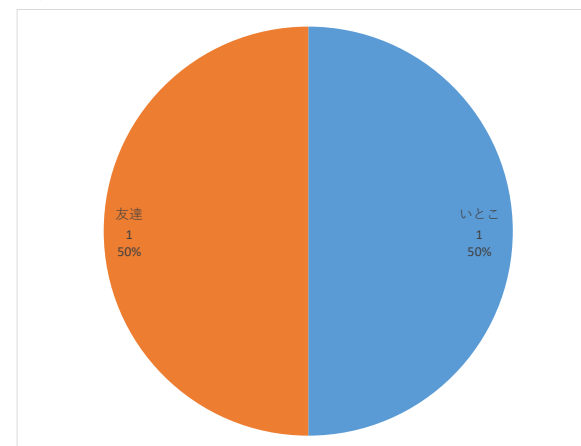
小学校 N=5



中学校 N=7



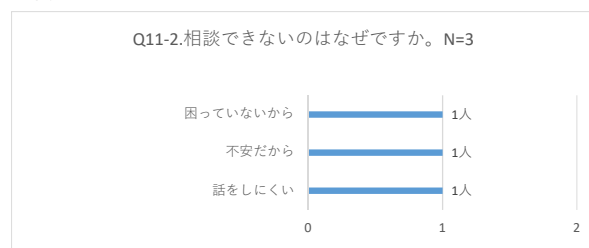
高校 N=2



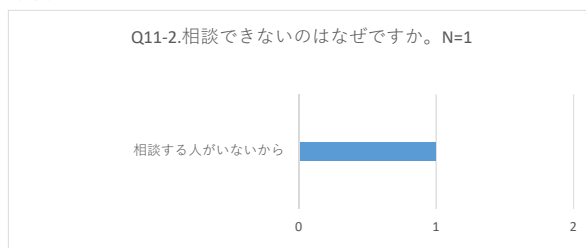
○小学校の相談先は父母。
 ○中学校は家族のほかに、友達やスクールカウンセラーと回答。
 ○高校は、友達といとこ。

Q11-2.相談できないのはなぜですか。（Q11で「いいえ」と回答した者のみ）

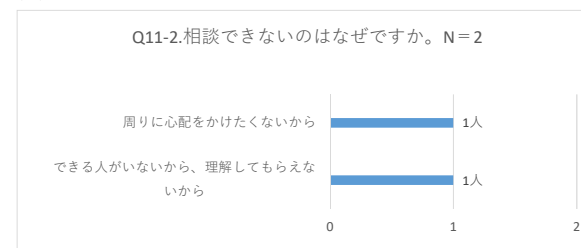
小学校 N=3



中学校 N=1



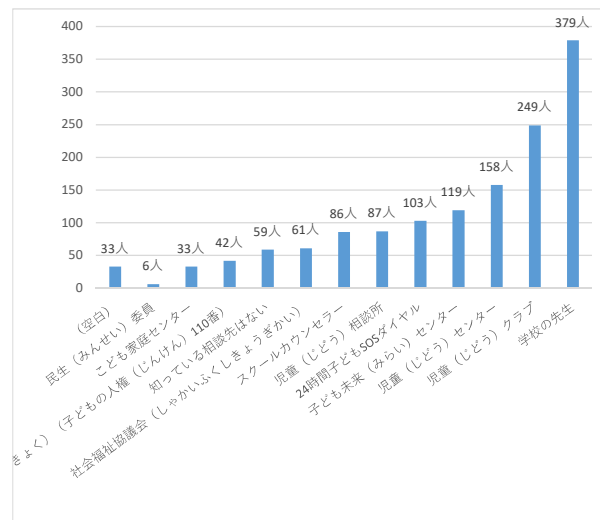
高校 N=2



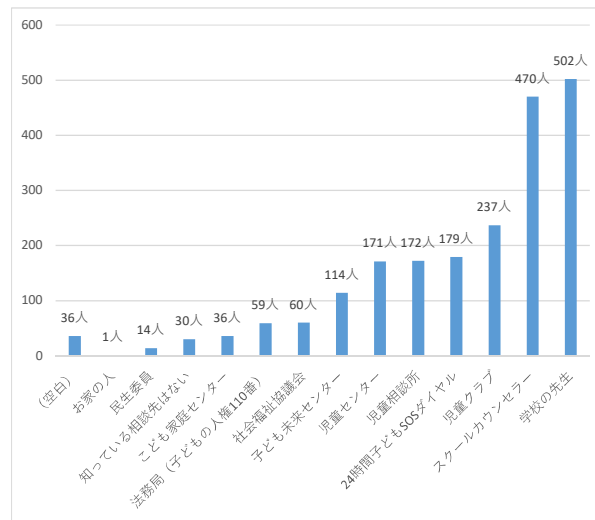
○周りに心配をかけるような事にならない、理解してくれる話しやすい相談先が欲しい。
 ○大変だと感じているが、困っていない。

Q12.“家族のお世話を大変だと感じたとき”や、“友人が大変そうにしているとき”の相談先として、知っているものを選んでください。（複数回答）

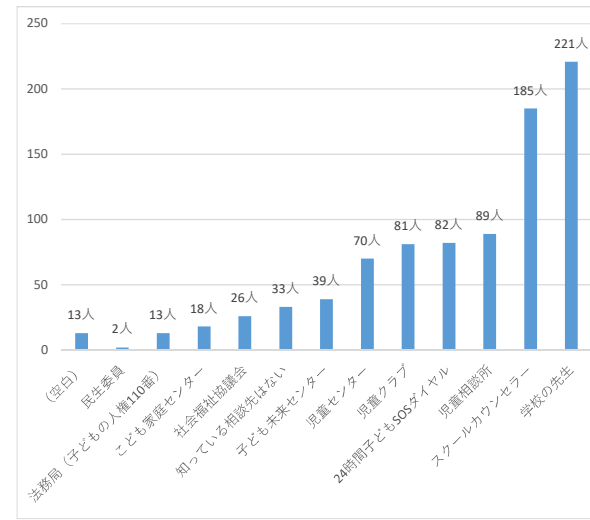
小学校 N=511



中学校 N=594



高校 N=301



○小中高を通して、学校の先生が相談先として最も認知されている。
○次いで中学校高校はSC。小学校は児童クラブ。
○「知っている相談先はない」と回答したのは、小学校59人、中学校30人、高校33人

まとめ

「ヤングケアラー」という言葉を「知っていた」と回答した割合は、小19%、中38%、高60%で、年齢が上がると認知度も高くなっています。今後、このアンケートの実施により認知度の上昇が見込まれます。

「Q5.あなたがお世話をしている家族はいますか。」で、小学校16人、3%、中学校22人、4%、高校14人、5%、合わせて52人が「いる」と回答しています。お世話の内容は、小中高を通して「買い物、料理、洗濯」「弟、妹の世話」が多く、お世話の対象は、「きょうだい」が多くなっています。「父母」と答えたのは、小学校4人（20%）、中学校6人（24%）、高校5人（29%）。週3日以上お世話をしているのは、小学校50%、中学校73%、高校36%。平日1日のお世話の時間が「2時間以上」の割合は、小学校18%、中学校35%、高校15%。中高に関しては、1日のお世話の時間が長い人が頻度が高い傾向にあります。

小学校に関してはお世話を大変だと「感じる」と「感じていない」が同数。中学、高校に関しては、「感じる」より「感じていない」が多くなっています。小学生は「時間的」「体力的」に大変さを感じていますが、中学生以上になると、「時間的」「体力的」に加えて「精神的」に大変さを感じています。「大変だと感じている」と答えた20人のうち6人が誰にも「相談できない」と回答しています。理由としては「相談相手がない」「心配をかけたくない」「困っていない」などとなっています。「相談できる」と回答した人は、相談先として「家族」「友達」「スクールカウンセラー」と回答しています。

知っている相談先として「学校の先生」を選択したのは、小学校74%、中学校85%、高校73%で、認知度は高いと言えます。次いで中学校、高校はスクールカウンセラー、小学校は児童クラブが多い状況です。「知っている相談先はない」と回答したのは、小学校59人、中学校30人、高校33人でした。